

令和7年3月31日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外 10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp?page_id=24990	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp?page_id=24990

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野をもった人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
76.5%	15.3%	2.4%	5.8%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
77.6%	16.5%	4.7%	1.2%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
81.2%	11.8%	5.9%	1.1%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
77.7%	14.1%	3.5%	4.7%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
75.0%	18.8%	6.2%	0.0%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
75.0%	25.0%	0.0%	0.0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
81.3%	12.5%	0.0%	6.2%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
68.8%	18.8%	0.0%	12.4%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうと する態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
69.6%	30.4%	0.0%	0.0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっている と思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
78.3%	21.7%	0.0%	0.0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
65.2%	34.8%	0.0%	0.0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・話をすることが楽しい。自分の気持ちや相手の意見がわかると嬉しいという気持ち。 ・外国語活動が楽しい活動と思ってもらうこと。(中学英語につなげられるように) ・正しい発音を身に付けさせること。 ・外国語に慣れ、楽しく学ぶ雰囲気や、言葉が通じるうれしさを味わえること。 ・英語に親しもうとする姿勢。 ・英語が話せなくても英語に慣れ親しむことになるといいと思います。 ・外国語活動で身に付けた言語によるコミュニケーションスキルを生かす。 ・英語で他者と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。 ・児童が外国語に興味をもつこと。 ・外国語に苦手意識をもたず、楽しんでコミュニケーション能力を高めていって欲しい。 ・外国に対して親しみをもつこと。 ・ゲームや歌を通して、楽しみながら外国語活動への意欲を高めてほしい。 ・英会話の抵抗の軽減。 ・英語は楽しいと思えることが一番だと思います。 ・外国の文化に対する興味をさらに高めてほしい。 ・コミュニケーション能力の向上。 ・英語が耳になれること。 ・第2言語を学ぶことを通して、他の文化を理解することの大切さ。 ・英語が身近な楽しいものとなり、英語への苦手意識をもたないようにすること。 ・聞く力の向上。 			

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
50.0%	40.4%	8.5%	1.1%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
63.8%	31.9%	4.3%	0.0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
44.7%	40.4%	11.7%	3.2%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。

(自由記述)

- ・外国語に苦手意識をもたせない。
- ・言葉の違う人と意思が通じた時の嬉しさを感じる。
- ・みんなが知っているような物語(赤ずきんや桃太郎など)をCDなどで流す。
- ・どの言葉がどんな英語になっているかなどを繰り返し行うこと。
- ・知ってる単語が増えること。
- ・リスニングに慣れる。
- ・英語力の向上。
- ・英語を使ってみようと思ったり、もっと勉強して話してみようという意欲向上。
- ・外国語に親しみをもてるようになる事。
- ・英語は必須。
- ・中国語や韓国語なども他国の文化を知る意味で活動に取り入れてもいいと思う。
- ・外国語に興味をもち、好きになること。
- ・単語だけでなく、低学年から日常で使える3語や発音も身に付けられると嬉しいです。
- ・6年間で簡単な意思疎通ができる英会話力。
- ・外国語活動の時間はなるべく日本語は使用しない等の積極的な授業。
- ・学力向上。
- ・外国語活動をとにかく楽しめること。
- ・ネイティブな発音と外国人との隔たりない対応力。
- ・外国語に興味を持ち勉強へ努力すること。
- ・授業の回数を増やしてほしい。(現在週一回の外国語活動なので)
- ・苦手意識をもたせない事。
- ・とにかく話してみよう、間違えても良いから言ってみようという気持ち。
- ・小さい頃から慣れること。
- ・楽しい会話。
- ・簡単な単語、フレーズの習得。
- ・グローバル社会において外国語はもっと積極的に学んでほしい。
- ・低学年の子にとって学ぶことは高いハードルにならないこと。
- ・ワイワイ、ニコニコ楽しく接する環境でありたい。
- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・楽しく本格的な外国語を学べる。
- ・早い段階から英語の勉強が出来る事はいい事だと思う。
- ・英語を覚えると思うから。
- ・小さい頃から外国語を親しんでいるお陰で、大きくなっても抵抗が少ない。
- ・これからますます英語を使用する機会が増えてくるのではないかと期待しています。
- ・外国の人に話かけられても、抵抗なく返答が出来るようになって欲しいと思います。
- ・「これからの時代において人材を早期から育成するため」とかかげるのであれば・・・一年生からでももっとレベルを上げた内容で、もっと身に付く外国語活動の実施が必要ではないでしょうか。
- ・英語塾と同等は難しいかと思いますが、近いものを期待いたします。

- ・親は授業内容を把握できていません。
- ・学校の活動で実際に英語に対して興味関心が高まっているのか(等)不明です。
- ・予習復習もできるので、テキストがあると良いと思います。
- ・学校での英語教育、現状からのレベルアップ等、これからの充実を期待しております。
- ・外国人や外国語へのハードルが低くなること。
- ・低学年のうちの方に英語の授業があることで耳が英語に慣れること。
- ・リスニングの能力が上がることを期待している。
- ・簡単な単語や動詞を早いうちに覚えていると英語への苦手意識も薄れると思う。
- ・日本語というものがいかに素晴らしい言語かを伝えていくことも必要かと思えます。
- ・外国人からすると日本語をマスターするのはとても難しい。
- ・外国語を学ぶとどういった仕事に就けたり、楽しいことがあるのかを伝えてほしい。
- ・英語は、スクールに通う子と、通っていない(通えない)子との差が大きく出ると思う。
- ・みんなが自信を持って英語の授業を受けられるようになれば良いと思います。
- ・英語を話すことやコミュニケーションに重きをおき、活用出来る授業を望みます。
- ・参加して表現する、それが出来る様な授業の内容に期待します。
- ・とにかく外国語に苦手意識を持たないようにしてほしい。
- ・自分からどんどん吸収するような活発な人になってほしい。
- ・話す能力。
- ・楽しく嫌いにならなければ。のびのびと学ばせたい。
- ・日本語ではない言語があるということを知る。
- ・リズム遊びやゲームなどで数や色などの簡単な単語が覚えられるようになること。
- ・外国語の必要性和興味をもたせる事。
- ・活動を通して「英語は楽しい」を経験させて欲しい。
- ・いろんな国の外国人と交流を持つ機会をもって欲しい。
- ・外国語を身近に感じてほしい。
- ・今の授業もとても楽しいみたいです。
- ・授業の様子を見ることが出来ないので、詳しい授業内容が分かりません。
- ・母国語以外を話す人への抵抗感が少なくなると良いかなと思います。
- ・レベルに応じたスキルアップ。
- ・英語を書くことより読むこと。
- ・自然に頭が硬くならないうちに親しんで学んでほしいと思います。
- ・外国語活動を継続して実施してほしいです。
- ・多文化にふれる機会から、たくさんの興味をわかせる事。
- ・ネイティブな発音の英語を話すことにつながってほしい。
- ・いっぱい英語で話して、英語に触れさせて欲しい。
- ・低学年のうちに外国語に触れることで、リスニング力の向上と苦手意識をなくすこと。
- ・何も期待していません。全く身になっていないので時間の無駄です。
- ・母国とは違う言語や文化があるということを知る機会となること。
- ・外国語と同じで日本語も世界にあるたくさんの言語の1つであると気付いてほしい。
- ・間違えても大丈夫な環境をお願いします。
- ・小学校卒業までにはある程度の英語を文章で喋れるようになること
- ・言語感覚を養うこと。
- ・楽しんで活動する中で、徐々に英語に慣れ親しんでいくこと。
- ・英語で話せるように小さいうちから外国語に慣れ親しむことで興味も広がると思う。
- ・ネイティブな発音を早期に聞ける機会があると聞き取る力もつくと思う。
- ・たくさんの外国語に触れる機会があると良いと思います。
- ・外国人と接する機会を多く与えてほしい。
- ・外国の方と関わりをたくさんもって英語を話したいと思うきっかけになってほしい。

- ・ネイティブとも恥ずかしがらずにコミュニケーションできる機会を設けてほしい。
- ・ゲーム活動などを通して楽しく学んで欲しいです。
- ・フォニックスも教えていただけるとありがたいです。
- ・他言語、多文化にふれることで興味をもつきっかけになること。
- ・言語習得は日常的に取り入れないと忘れてしまう。
- ・授業としてコマを増やすより毎日 15 分でもいいので外国語活動を行ってほしい。
- ・リスニング、シャドーイング取り入れる試みをするのはどうか？

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では教育目標を「夢や希望をはぐくみ個性を生かして学ぶ児童の育成」とし、児童の学ぶ意欲を向上させ、一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを行っている。小学校 1・2 年生における外国語活動の効果と課題は以下のとおりである。

【効果】

- ・ピクチャーカード、動画を活用し(文字を介さずとも)、会話を通して学んでいる。
- ・ALT が児童の発達段階に合わせた英語の歌やゲームを提供し、児童が楽しみながら英語学習(第二言語学習)に取り組むことができている。
- ・低学年から外国語活動を行い、授業前の挨拶(天気の言い方・何曜日・何日等)や TPR の活用をすることで、中学年、高学年において、クラスルームイングリッシュ(stand up・sit down・raise your hands)の意味や動作が身に付いて活用できている。

【課題】

- ・苦手意識をもっている児童が「英語が楽しい」と感じることができるよう、学習課題や発達段階に即した学習活動を行っていく。
- ・学習到達度目標(Can-do リスト)や学習した内容、状況について、児童だけでなく保護者も把握できるようにホームページに Can-do リストの掲載を行う。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

パフォーマンステストでは、ルーブリックやモデル例を見ながら、課題把握や単元で使う表現を確認して取り組んだ。しかし、児童が自ら調整を行う時間の確保が十分ではなかった。加えて、クロームブックを活用し、自分が使いたい表現や知りたい英単語を調べ、活用する活動を行っているが、翻訳機能をそのまま使用してしまうと、①ネイティブが使わない表現、英語圏では使われない表現が提示されること②翻訳しきれない文は勝手に省かれてしまうこと③主語がなんなのか、打ち込まれた文章だけでは捉えきれないこと④翻訳機能を効果的に使い、正しい訳文を作成するためには、英語の知識が必要なこと、などの注意点を併せて理解させていく必要がある。日々の Small Talk の中で、単元全体を見通した学習活動を行うと共に、児童が自らの学習を調整していけるようにしていきたい。

5. 課題の改善のための取組の方向性

【外国語活動】

低学年の児童が外国語活動に意欲的に参加できるように、自己紹介やTPR・世界の国々の国旗、色や形・数・食べ物や有名なものの言い方や表現を繰り返し学習する。

本校での特色ある取組の一環として、低学年から三笠スタイルを取り入れ、児童の学習内容の理解と学習ルールの確立を行っていく。また、3・4年生では、非言語(ジェスチャー、アイコンタクト)等を積極的に活用する学習活動を引き続き行う。

学校のホームページ等を活用し、年間の学習計画や授業での様子を紹介し、保護者が児童の外国語活動を知ることができるようにする。

【外国語科】

実際の日常会話を想定した、目的・場面・状況が明確なパフォーマンステストを設定する。パフォーマンステストに向けて、教科書で学習した内容を児童が活用できるように、Small Talk や授業開始後の挨拶の時間に既習事項を繰り返し活用する活動を行う。児童同士がより会話を継続させられるよう、Repeat や Reaction、Ask question を活用する場面を積極的に設定し、会話の仕方を日々練習していく。

5・6年生は、パフォーマンステストの場面・目的・状況を明確にし、オンラインブレンディッド授業を活用したたくさんのALT と会話を行う活動を設定したり、他学年にパフォーマンステストを紹介したりする等、学校内外を通して、より実践的に取り組んでいきたい。

